

QRコードのリンク先

基本の流れ（例）

1. 作戦タイム①（3分）
2. 肯定側「立論」自分たちの立場を明確に主張する。（3分）
3. 否定側「立論」自分たちの立場を明確に主張する。（3分）
4. 作戦タイム②（3分）
5. 否定側「反対尋問」相手の一番大きな問題点を批判する。（3分）
6. 肯定側「反対尋問」相手の一番大きな問題点を批判する。（3分）
7. 作戦タイム③（3分）
8. 否定側「最終弁論」相手の主張に對比させて、理屈にあった主張を行う。（3分）
9. 肯定側「最終弁論」相手の主張に對比させて、理屈にあった主張を行う。（3分）
10. 判定（3分）

3分ずつでは短いと感じられることもある。4分ずつだとより充実した検討ができる。作戦タイムのみを1分延長するなど、生徒の活動の実態に応じて変更してよい。

評価表（例）

テーマ プラスチックを使わない社会にする 否定側 勝敗 ○

準	課題の設定は適切でしたか	A <input checked="" type="radio"/> B C D
	グループで協力できましたか	<input checked="" type="radio"/> A B C D
備	作戦タイムを有効に使いましたか	<input checked="" type="radio"/> A B C D
	情報はうまく集まりましたか	A <input checked="" type="radio"/> B C D
	情報の選択、組み合わせは適切でしたか	A B <input checked="" type="radio"/> C D
	時間配分は適切に表現できましたか	A <input checked="" type="radio"/> B C D
	声の大きさ、早さに注意して表現できましたか	A <input checked="" type="radio"/> B C D
	相手を説得することができましたか	<input checked="" type="radio"/> A B C D
	判定結果は納得できる結果でしたか	<input checked="" type="radio"/> A B C D
ディベートを終えた感想		
はじめはプラスチックがあってもなくてもいいような気持ちだった。調べてみると生活のあらゆる場面でプラスチックはプラスチックは役に立っている。マイクロ化が心配だからなくしてしまった方がいいという意見もある意味では納得できるが、簡単にはできない問題であり、だから自分でできることはやっていきたいと感じた。		
もう1回同ディベートする場合、そのときの改善点		
事前に調べる量と、言いたいことを1つにしぼってチームで分担していろいろな角度でそれを打ち出していくことで勝負が決まる気がした。次回もそこをがんばりたい。		